

## 第2回懇談会における主な意見

## 1 複合施設整備にかかる基本的な考え方（案）について

## (1) 複合施設の整備コンセプト、期待する相乗効果について

○新しく整備する複合施設は、それぞれの機能を発展させた施設をつくるのか、3つの施設を合わせて一緒にするだけなのか、既存の施設の規模や役割に捉われず、どのようなコンセプトを持たせるのかという視点が必要である。

○基本的な考え方（案）の内容は、複合施設にしてもマイナスにはならない、単独・複合化を問わず、時代の変化に対応してやらなければならないことを記載している。教育的な意味合いでどのようなプラスアルファを生み出せるかが課題である。

○阿佐谷地域のランドマーク、新たなシンボルという点では、日本がアニメ文化を世界に向け発信していることを考えれば、アニメ文化という要素を持つことも考えられる。

○杉一小ジュニアバンドがコンクール前にホールで練習したい時も、杉並区の施設では入りきらなくなっており、他の自治体の施設を借りている現状を踏まえ、練習が可能となる施設づくりを考えていけたらよい。

○様々な用途にも使用できるが、積極的に防音設備が整った音楽の練習施設をつくるなど、いくつか特色のある施設機能を考えてもいいのではないか。

○阿佐谷地域の小学校との複合化でランドマークをつくるとすれば、未来に向けた文教地区のシンボルとなるような教育施設も一緒にしているもの考える必要がある。

○複合する施設を縦割りに入れて相互利用するだけでなく、新しいものを取り入れて共有化しながら、子どもたちと地域の方々が一緒に活動する第3のエリアをつくる検討も必要である。

○コンセプトを考えるにあたり、文化、その中でも教育をシンボルに掲げていくのがよい。

○阿佐谷のまちづくりは文化であり、密接に結びついているのが健康と捉え、健康というキーワードをまちづくりの視点に入れていくのがよい。

○コンセプトを具体化するには、現在の杉並第一小学校がベースにあり、複合する施設の機能や役割、何を重点にするのかというところを考えていく必要がある。

○複合施設の機能は、学校、地域住民、産業関係者で使い合うということが複合化のメリットである。共用化したり、使用を時間で分けたりすることを今後考えていく必要がある。

○まちづくりの観点からは、ハード面からのまちづくりから、ソフト面から街のストックをどう生かし、歴史・文化・資産、そこに活動する人々がどう作り上げていくかが重要。新たな文化のシンボルという言葉に落ち着くのではないか。

## (2) 杉並第一小学校の改築にあたって

○「資源の再利用や自然環境に配慮した環境教育に資する学校」というのが、イメージがわからない。

○政府が、日本式教育の輸出、教育産業の海外進出で国際貢献を目指すという中で、杉並第一小学校は日本の教育システムの手本といえる学校。日本の教育モデル校としての十分な機能・設備を取り入れていく必要がある。

## (3) 新たな区民施設の整備にあたって

○公共のホールがない阿佐谷地域で、駅前に新たに整備するのであれば、杉並第一小学校の児童数に対し、定員250名のホールの整備では少ないと感じる。

○現在の阿佐谷地域区民センターでは、料理関係の利用が結構人気があり、食文化という視点も大切なので、機能の継承ということも大切である。

○「類似する機能を整理し」とあるが、施設機能なのか、利用・活動内容の意味での類似なのかを明確にし、地域区民センター・産業商工会館でなければならない活動の使用目的になっているのかという視点での整理をしないと、施設規模が無限になってしまう。

○阿佐谷地域区民センターは、集会機能を支えてきた約30年間の蓄積がある。利用率のデータや少子高齢化が進展する中での利用傾向なども加味し、集会機能の集約のあり方を検討する必要がある。

## 2 その他

○整備にかかるコスト面を考えると、改築スケジュール（案）のように進めるのか、計画を練り直してコスト面での試算を試みるのも一考の余地があるのではないか。

○事例紹介は、施設が一体化し相互利用するイメージのものであり、杉並第一小学校の現在の教育に沿って、新しい施設を使用し、地域の方々と教育において具体的に相乗効果が生み出せるモデルとなる事例を紹介してもらいたい。

○地域と密につながっている杉並第一小学校との複合化なので、相乗効果を考えていく必要がある。埼玉県志木小学校が参考になると思われ、図書館や特別教室などが小学校と区民施設で共有しており、運営面での工夫や相乗効果という点を参考にしてみるのがよい。